令和6年度 第2回沖縄県がん診療連携協議会 小児・AYA部会 議事要旨

日 時：令和6年9月9日（月） 13:00～

場 所：WEB会議

構 成 員：18名

出 席 者：13名

大畑尚子(中部病院産科)、比嘉猛(南部医療センター・こども医療センター小児科)、屋宜孟(南部医療センター・こども医療センター小児血液・腫瘍内科)、親富祖しのぶ(南部医療センター・こども医療センター看護部)、岩崎政志(森川特別支援学校)、徳元亮太(沖縄がん教育サポートセンター)、外間早紀子(沖縄県保健医療部健康長寿課)、金城正樹(沖縄県教育庁保健体育課)、金城敦子(がんの子どもを守る会 沖縄支部)、浜田聡(琉大病院小児科)、銘苺桂子(琉大病院産婦人科)、仲地佐和子(琉大病院第二内科)、増田昌人(琉大病院がんセンター)

欠 席：5名

林絹子(中部病院腫瘍・血液内科)、伊良波史朗(南部医療センター・こども医療センター放射線科)、當銘保則(琉大病院整形外科)、宮平有希子(がんの子どもを守る会 沖縄支部)、喜納綾乃(琉大病院看護部)、

陪 席 者：5名

岸本こずえ(沖縄県教育庁保健体育課)、有賀 拓郎(琉大病院診療情報管理センター)、平敷千晶(産科婦人科)、宜保敬也(産科)、石川 千穂(琉大病院がんセンター)

【報告事項】

1. 令和6年度 第1回小児・AYA部会 議事要旨(6月5日)

資料1の通り確認された。

2. 小児・AYA部会 委員一覧

資料2の通り確認された。退職した森島聡子先生の後任として、琉大病院第2内科講師の仲地佐和子先生が新たに加わった。

3. 「妊孕性温存療法」と「がん治療後の生殖医療」WG 委員一覧

資料3の通り確認された。

4. 令和6年度「がん教育外部講師研修会」の後援について

徳元委員より、資料4に基づき、がん教育外部講師研修会が11月に2日間開催されることが報告された。小児・AYA部会は後援となっており、各施設に研修会のリーフレットの設置が依頼された。

5. 助成金申請時のアプリ登録100%に向けた対応について

銘苅委員より、資料5に基づき説明があった。以前より報告があるように、妊孕性温存療法の助成を受けるときの条件として、JOFRに登録する事になっているが、研究協力の同意がないまま助成を受けている方がいる現状がある。県の方でも、登録のダブルチェックをしてもらえないか相談していたが、確認したところ生殖医療をやっている病院でしか、ログインIDとパスワードを持っていないようだったので、病院で対応することとなった。なるべく登録100%にできるように進めていくとのことだった。

6. 若年がん患者在宅療養生活支援事業(沖縄県若年がん患者等支援事業)における市町村の参加状況について

7. アピアランス支援事業(沖縄県若年がん患者等支援事業)における市町村の参加状況について

外間委員より、資料6-1と6-2に基づき説明があった。9月1日時点、それぞれの事業に参加している市町村は、資料下段に記載の通り。

8. 市民公開講座の開催について

銘苅委員より、資料7に基づき、8月3日に開催された市民公開講座について報告があった。サバイバーや医療者、議員や市議等、多くの方に参加して頂き、充実したシンポジウムになったとのことだった。

9. 「ロジックモデルと指標の活用の仕方を身につける研修会」への参加について

(開催日 11月17日 12月22日)

増田委員より、資料8に基づき案内があった。

10. その他

特になし。

【協議事項】

1. 副部会長の選任について

新副部長として森島先生の後任の仲地委員(琉大病院 第二内科)が選任された。

2. 第4次沖縄県がん対策推進計画(協議会版)における所掌分野の進捗及び今期の部会活動について

増田委員より、当日資料が画面共有され、がん対策推進計画(協議会版)の中から、小児がんとAYA世代のがんの評価指標の進捗等についての説明や関連する報告がされた。

【報告内容】

- ・沖縄県がん診療連携協議会議長名で、県内の主な施設長あてに、沖縄県における専門医療者が少ない事実を改めて認識してもらうための文書を送った。
- ・専門医療者の養成についての道筋を医療部会と離島・へき地部会で話し合っていく。

専門医療者に関して、以下のような質疑応答があった。

増田委員：実際臨床の場で、専門家の数が少ない、また沖縄県の患者さんが他の県と比べて不利益になっている現状はないか。

浜田委員：大学病院においては、あと数年で数名程の専門医が増える予定である。

比嘉委員：南部医療センター・こども医療センターも数名の専門医が増える予定であるが、そもそも小児科医が少ないので、その底上げをしないと厳しい。

増田委員：小児外科医は足りているか。

浜田委員：大学病院は2名在籍している。南部医療センター・こども医療センターにもいらっしやる。沖縄は他府県に比べて比較的恵まれているように思える。

比嘉委員：当院は、1名減ってしまったのでかなりご多忙かと思われる。

また、増田委員から、金城委員へ、患者会への年間を通じての相談件数や内容等の統計があれば、良い指標になると思うが、その数値は出せるかと質問があった。金城委員から、昨年度からの数値なら出せるという回答だったので、後日相談することとなった。

AYA世代のがんのところで、具体的な評価指標をとることが難しいようだった。増田委員から「子どもがいるAYA世代のがん患者に対して、その子供に対する支援を行う」指標に関して、ホープトゥリーと連携を取ることを検討できないかと要望があり、検討されることとなった。

3. 沖縄県の病弱教育における高校生支援の提案について

岩崎委員より、資料10に基づき、説明があった。現在この内容については、「県立学校校長会」へ要望書を提出中だが、小児・AYA部会委員にも状況を把握していただきたい。森川特別支援学校の現状として、下記のようなものがある。すべてをカバーすることは難しいので、県教育委員会にも支援及び舵取りを担って頂けないか。

○森川特別支援学校の現状

- ・入院する生徒が多い時期は、在籍している教職員が足りず、十分な学習支援ができない。
- ・生徒の体調や心理的な状態によっては、いつでも授業ができるわけではない。
- ・通常の学校のように6校時授業も行いながら、生徒の心理的な支援や、保護者の相談支援も放課後に行っている。

○県教育委員会に対応してもらいたい内容（「県立学校校長会」へ要望書を提出中）

治療プロトコールの変更があり、各県立高校に在籍している生徒が病気で長期入院や在宅治療となった場合、3週間以下の入院期間、または入退院を繰り返さないのであれば、下記2パターンの学習保障を選択できるようになっている。現在、調整は森川特別支援学校と生徒の在籍校とがやり取りをして支援しているが、県教育委員会に、対応窓口を設け、学習保障の割り振りや遠隔授業に使用するテレプレゼンスロボットのような通信機器の貸し出し等を担ってもらえないか。

学習保障1 院内に教員が常駐して授業を行う

学習保障 2 在籍校での遠隔授業

また、医療施設に関する課題は以下の通りということだった。

- ・院内教室はあるが開けない施設や、院内教室自体がない施設がある。
- ・小学生から高校生までまとまって授業を行っているので、授業に身が入らない状況がある。

増田委員より、高校生の学習支援に関しては、琉球大学病院、那覇市立病院、県立中部病院に把握してほしいこと、してほしいことを文書にして11月の「沖縄県がん診療連携協議会」に提案書を出してはどうか、と提案があり、検討されることとなった。

4. AYA サポートチームの構築について

増田委員より、進捗は特になしとの報告があった。

5. 次回開催について

第3回部会は12月に開催予定。日程調整アンケートを事務局から案内する。

6. その他

以上